

山種記念館の秋期の展示は、群馬県出身の日本画家の作品を二期にわたってご紹介します。群馬県はこれまで多くの日本画家を輩出してきました。本展はそうした群馬ゆかりの日本画家による、主に明治から昭和前期頃に制作された作品を展示しています。

近代南画の巨匠とされる館林生まれの小室翠雲は、《山水図屏風》で金箔地に墨や淡彩を用い、中国風の山水を表現しました。南画における山水は胸中の理想郷であり、文人画、南画的価値観と作家の思いがこめられています。伊勢崎に生まれた礒部草丘は、日本の風景を叙情豊かに描く川合玉堂に師事し、風景画を得意としました。よく知られる、南房総での療養を機に描くようになった海景や、戦後、形態を面で捉えた濃彩の奥深い山景ではなく、幻想的な雰囲気漂わせる《炭窯》や、南画の趣を残しつつも日本の里山を牧歌的に描いた《春暁》など画業初期の作品を展示しています。草丘と同門で写実的な表現で知られた児玉希望に学んだ太田出身の福田元子は花鳥画を得意としていました。若手画家として将来を嘱望されるも東京大空襲で没しました。今回はつつじの画稿を展示します。小室翠雲に師事した館林出身の岸浪百艸居は、南画を基礎に大和絵などの装飾的な表現や明快な造形性を取り入れており、南画の枠にとらわれない自由な表現を試みています。近代に活躍した作家たちによる多彩な表現をおたのしみください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法(縦×横cm)	備考
1	小室翠雲	山水図屏風	大正12(1923)年	絹本金地墨画淡彩・ 幀装(六曲一隻屏風)	168.8×373.8	
2	町田玉穂	曲水の宴図	明治36(1903)年	紙本墨画淡彩・軸装	133.9×64.4	松田実氏寄贈
3	新井洞巖	深巖濺瀑図	昭和14(1939)年	紙本着色・軸装	180.1×41.7	新井正明氏寄贈
4	礒部草丘	炭窯	昭和2(1927)年頃	絹本着色・軸装	175.3×258.2	
5	礒部草丘	春暁	昭和3(1928)年	紙本着色・軸装	104.5×36.1	大森暢久氏寄贈
6	礒部草丘	緑陰遊禽図	昭和9(1934)年	絹本着色・軸装	130.1×41.0	大森暢久氏寄贈
7	礒部草丘	豊秋村図・梅花村図	昭和6(1931)年	紙本着色・ 幀装(六曲一双屏風)	各158.0×350.0	礒部昭次氏寄贈
8	岸浪百艸居	露葉霜條	昭和10(1935)年	紙本着色・ 幀装(六曲一双屏風)	各196.7×345.6	
9	福田元子	つつじ(1)	昭和11(1936)年	紙本淡彩、墨・額装	67.5×135.8	福田元子資料
10	福田元子	つつじ(2)	昭和11(1936)年	紙本淡彩、墨・額装	67.0×135.0	福田元子資料

*作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。
また、都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承ください。

【次回予告】「群馬の日本画家Ⅱ」10月24日(火)～12月19日(火)

本展に引き続き、群馬県出身の日本画家の作品をご紹介します。